

利根中央病院

病院

だより

第6号
2005年8月

企画発行 利根中央病院地域医療連携室
〒378-0053 群馬県沼田市東原新町1855-1
電話 0278-22-4321 FAX 0278-22-4393
URL <http://www.tonehoken.or.jp/>
E-Mail master@tonehoken.or.jp

理念と方針

理念 安心と安全、参加と共同
患者中心のチーム医療

方針 ☆救急体制の充実、いつも安全確認
絶やさぬ笑顔
☆診療情報提供と共に作る診療計画
☆広げよう人と人との結びつき
すすめよう健康づくりまちづくり



特集

1, 沼田利根医師会症例検討会

2, 診療科紹介

① 産婦人科

② 小児科

3, 6月新任医師紹介

① 森本和典・・・整形外科医長

② 西野昌宏・・・整形外科医師

③ 細川高史・・・整形外科医師

④ 桜井健司・・・眼科医長



沼田利根医師会 症例検討会

地域医療連携室 室長 大屋成之



2005.6.13（月）19時から当院講堂にて、医師会症例検討会が開催されました。今回は、回生堂医院の青木先生より「かかりつけ医から見た地域医療」の演題で講演していただきました。医師会症例検討会の歴史では、はじめて開業医の先生に発表していただき、当院医師とは異なる視点が提示され、討論もあわせて大変勉強になりました。

当院からの発表は、3演題（内科、外科、小児科）のみとしました。これまでより大幅に演題が少ないですが、その分、発表・討議時間をそれぞれ10分としました。

先端診療や医療倫理などの話題でしたが、従来よりも活発な討論がなされていました。

参加人数もこれまでで最多であり、盛況のうちに閉会できました。

今後とも宜しく願いいたします。



診療及び患者紹介のお願い

● 午後の内科一般外来の閉鎖についてのお願い

4月7日より、群大からの医師派遣が減員となり、午後の内科一般外来を閉鎖することとなりました。専門外来は今まで通り行っております。医師体制が充足された時点で、再開させていただきます。

患者様を初め、ご紹介いただく先生方には大変ご迷惑をお掛けしますが、何卒よろしくお願い申し上げます。二次救急の対応は今までどおり行ないますので、ご紹介ください。

午後の内科休診に伴い、患者様が皆様の病医院に受診するようになるかと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

● 患者様のご紹介についてのお願い

日頃より多くの患者様をご紹介いただき有難うございます。内科一般外来の午後休診など診療体制にご迷惑をお掛けいたしますが、今後ともよろしくお願いいたします。

ご紹介をいただく際に、下記についてお願い申し上げます。

- ① 急患や重症患者様のご紹介の際には、各科へお電話にてご一報ください。
- ② ご紹介の患者様には、簡単で構いませんので診療情報提供書を必ずお書きくださるようお願いいたします。（診療情報提供書は御返事や逆紹介のための資料に役立たせていただきます。）

以上、誠に勝手なお願いですが、患者様を中心とした円滑な医療連携を進めるためにぜひご協力ください。



2005年6月 新任医師あいさつ

整形外科全般に奮闘

6月より医長として赴任してまいりました森本です。国立病院機構沼田病院にて5年勤務した経験を生かし、利根沼田地域の整形外科全般を担いたいと考えております。整形外科は3名の医師交代がありましたが、皆様のお役に立てるように頑張りますので、よろしくお願いいたします。



整形外科医長
森本和典

地域医療に貢献したい

このたび6月より利根中央病院へ赴任して参りました、西野目と申します。以前は深谷赤十字病院に勤務しておりました。地域医療に貢献できるよう一生懸命頑張りますのでよろしくお願いいたします。



整形外科医師
西野目昌宏

地域密着に一役

このたび6月より利根中央病院に参りました、整形外科の細川と申します。以前は安中市の碓井病院に勤務していました。地域に密着したこの病院で、皆様のお役に立てるよう頑張りたいと思います。よろしくお願いいたします。



整形外科医師
細川高史

Quality of visionの向上に努力

地域の皆様の目にまつわる健康相談や、Quality of visionの向上に全力を尽くしたいと思います。よろしくお願いいたします。



眼科医長 桜井健司

産婦人科紹介

副院長・産婦人科医長 糸賀俊一
産婦人科医長 栗原 努



昨今の報道にもありますように群馬県、中でも利根郡では少子化が進行し分娩数の減少が著しい状況になってきました。それに追い討ちをかけるように、産婦人科医と小児科医の不足が全国的に拡大し、群馬県でも館林市、吾妻郡、渋川市の中核病院から産婦人科医が撤退する事態になっています。このような医療情勢の中、利根中央病院産婦人科は現在糸賀俊一（50年卒 副院長） 栗原 務（平成01卒 医長） 狩野 智（平成04卒 医長）の常勤医3名と群大からの2名の非常勤医師の応援で診療しています。

外来診療の特徴：一日平均外来患者数は60人。産科外来は全て予約制になっています。特殊外来として不妊外来（木曜日の午後）とすこやか外来（月曜日の午後）と術前外来を開設しています。不妊外来ではIVF以外のすべての不妊治療を目標とし、排卵誘発、精子洗浄後AIHなどおこなっています。すこやか外来では骨粗鬆症と更年期の治療をしています。また、地域の骨検診に積極的に参加し150人近くの患者さんを管理しています。理想としては開業医の先生方のご紹介により当科で骨密度検査を施行し、その後の管理については開業医の先生方をお願いしていければと考えています。術前外来では説明と同意を基本に時間をかけて患者さんと家族に対応しています。

入院治療の特徴：産婦人科のベッド数は17まで減少し、分娩数も昨年320例と減少しています。少子化の影響もありますが、病院の老朽化が最大の原因であり、新病院の建設が強く望まれます。（群馬大学産婦人科の関連病院では一番古い病院となっております。）手術は、お腹を切らずに治すことを目標に腹腔鏡

下手術は年間約50例あり、腔式子宮全摘術は年間約20例、その他お腹を切らずに治す手術が約15例あります。癌治療に関しては、利根沼田地域を含め群馬県北部の癌センター的役割を担い、年間30から40の婦人科悪性腫瘍の治療をしています。

今後は、より一層開業医の先生方と地域連携を親密にし、利根沼田地域の産婦人科治療に貢献していきたいと思っています。



産婦人科外来スタッフ



小児科紹介



小児科医長 小川哲史

小児科外来スタッフ

平素より、県内および近隣の医療機関の先生方には大変お世話になっております。今回は当院の小児科についてご紹介させていただきます。

昨年は念願の常勤医4名が確保でき、日祝日の日直を含め診療の更なる充実化を図ることが出来ました。しかし、本年度は全県下で小児科医が不足しており、当院もその余波を受け3名に減員されました。業務が複雑・多様化している昨今、スムーズな業務の遂行の上では厳しいところですが、患者様にご迷惑のかからないよう努力しています。

外来は、午前中に一般外来、午後は専門・予約外来と区分しています。当院はオーダーリング化に伴い各科で予約制が導入されましたが、発熱などの急性疾患が大部分である小児科の午前一般診療での予約は困難であり、現在のところは従来通りの受付とさせていただいております。一方、午後は全て予約制とし、専門外来や退院後のフォローアップ、種々の検査などを行っています。そのため午後の一般診療は休診となっておりますが、救急患者様は可能な限り対応させていただきますので、お電話にてご相談ください。

午前中の一般外来は初診、再診を含め幅広く対応し、患者様に納得のいく診療を提供できるよう、医師、看護師ともに努力しております。例えば、子どもさんの急性疾患では「診察し投薬する」といった流れが中心になりがちですが、それ以上に家庭でのケア方法や病気に対する理解を深めることが重要であることを職員全員で意識し、これらに対する説明の時間を十分に取るように心がけております。また、薬剤耐性菌が大きな問題となっている現在の医療に鑑み、ウイルス感染症が多い小児の発熱に対しては、基礎疾患がない限りは安易な抗生剤投与を控え、まずは対症的に経過を見るスタンスを大切にしています。細菌感染症が疑われる場合には、原則として全例で培養検査を行った上でCDCのガイドラインに準拠した抗生剤投与を第一選択とし、耐性菌が検出された場合には感受性に応じた薬剤へ変更するようにしています。このため、小児科医は細菌検査室と密に連絡を取り合い、培養の途中経過や感受性を把握しながら迅速な対応ができるように努めています。昨年度の検査室集計では、ベータ・ラクタマーゼ産生株やBLNARの検出頻度は、一般の報告に比べ有意に低いという結果を

得ています。

専門外来は、呼吸器・アレルギー、心臓、内分泌、神経、腎臓、消化器について群馬大学の専門医に診療を依頼しており、各分野の専門的なご相談に応じています。全て予約制となっておりますが、外来によっては予約が取りづらいことがあり、新規患者様のご紹介はまずは常勤医へご相談下さい。

日祝日は救急外来にて小児科医が日直として救急診療を行っていますが、待ち時間が非常に長くなっております。内科系、外科系の救急患者様も来院されますので、重症者搬入時や病棟急変時などの際は更に混乱が生じ、残念ながら二次医療に支障をきたしていると思われる場面もあります。より良い地域医療を提供できるよう、現在、医師会の先生方や群馬県小児二次輪番制度の中での話し合いを進めております。

小児科病棟は内科との混合病棟で、一般小児10床、未熟児・新生児5床の計15床です。近隣の先生方には、日頃より多くの患者様をご紹介いただき感謝しております。利根沼田地区で唯一の小児科ベッドを有する総合病院として適切な入院医療を遂行するため、医師、看護師ともに定期的にカンファレンスを行い治療方針などを確認しています。また、耳鼻咽喉科や皮膚科など、小児科との境界領域を有する科との連携を強め、トータルに子どもさんの診療を行えるよう努力しています。産婦人科とも常に連絡を取り合い、未熟児や仮死児に対応し入院加療を行うとともに、成熟新生児も定期的に小児科医が回診して疾患の早期発見に努めています。さらに整形外科医の協力を得て、出生した児全員が股関節脱臼や内反足の有無についての診察を受けています。現在の病棟は老朽化により必ずしも快適な環境とはいえませんが、今後の病院リニューアルの際には、個室の増床やプレイルームの設置などを含め、子どもさんがより良い入院治療を受けられますよう環境整備を行っていきたいと考えています。今後とも、宜しくお願い申し上げます。

